



発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第441号

からしだねの由来 マタイ13章31節、マルコ4章30節、ルカ13章18節
ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

「司祭不在の時の主日の集会祭儀」導入について ①

フランシスコ・アシジ 谷口尚志

1、そもそも「司祭不在の時の主日の集会祭儀」とは？

・「司祭不在の時の主日の集会祭儀」とは、司祭が不在のために主日にミサを捧げることのできない教会において、信徒が集って行う祭儀のことです。この祭儀を行うにあたり、ふさわしく養成された後に司教から任命を受けた司会者が立てられなければなりません。なぜなら、この祭儀は主日のミサとは異なるけれど、同じ主日に行われる祭儀だからです。よって、まず主日に集まる意義を各自が理解しておかなければなりません。

2、どうしていま「集会祭儀」の導入が想定されているのか？

・バチカンの典礼秘跡省は、既に1988年6月2日付けで司祭不在の時の主日の集会祭儀についての指針を全世界の教会に向けて発表しています。その理由は、世界的規模で司祭が不在のために主日にミサを捧げることができない教会が増加していたためです。日本の教会も同じと言っていい状況だったため、この指針をもとに各教区の事情にあわせてこれまで適応してきましたが、全国で共通に用いることのできる儀式書がなかったことを受け、2018年9月14日付けで試用版（典礼秘跡省からの正式な認可はまだ下りていないが、司教団で使用を認めたという意味）の儀式書が発行されました。

・アベイヤ司教は2025年1月現在の福岡教区全体を見て、司祭不足に伴い、今後は離島での主日ミサ挙行が難しくなること、複数の教会を担当する司祭には時間的なことだけでなく司牧的にも相当な負担がかかってくることなどを鑑み、現在、司祭が滞在していて対応が可能な状況下にある教会共同体に対しても、教区全体の問題としての共通意識を持ち、早急に集会祭儀のための司会者を推薦するようにとの呼びかけをされました。

ただ、この呼びかけに応える形で集会祭儀の導入と、司会者の推薦を急ぐ前に、「そもそもミサとは何が行われているのか？」、「ミサが挙行されないのになぜ主日に信徒は集わなければならないのか？」、「司祭不在の時の集会

ガンバ3	3面
外国語ミサの話	4面
幼稚園から	5面
お知らせ	6面

祭儀にどのような心構えであずからなければならないのか？」などの問いに対して返答できるよう、信徒としての自覚を今一度見直すことが必要不可欠です。

3、「集会祭儀」の導入とともに真剣に取り組むべきことは？

・一人の司祭が誕生するためには最低でも6年の歳月がかかります。福岡教区では、これまで修道会、宣教会、韓国／ソウル教区、韓国／インチョン教区、韓国／テグ教区、国内の他教区から派遣された司祭が小教区共同体のために司牧にあたって下さいました。しかし、年月が経ち、彼らへの感謝の気持ちも薄れ、司祭たちが常駐していること自体が当然であるかのように思われています。彼らはそれぞれの事情で、いつ私たちの小教区を離れるか分かりません。集会祭儀を行うための準備とともに、私たちの小教区から司祭職を目指す者が誕生するよう懸命に働きかける決意を新たにしましょう。この働きかけは信徒としての自覚からしか芽生えてきません。そのために、次の世代を担う青少年が教会のなかで育ち、関わることのできる環境づくりを司祭と共に心がけていかなければなりません。

4、「司祭不在の時の主日の集会祭儀」導入にあたって学び直すべきポイントとは？

(1)、主日の意味を理解すること。(2)、ミサの記念を理解すること。(3)、教会(信徒の集まり)を理解すること。

5、主日の意味を理解すること。

—「教会はキリストの復活の日に起源をもつ使徒の伝承により、過越の神秘を八日目ごとに祝う。この日はそれゆえにこそ、主の日すなわち主日と呼ばれている。」(『典礼憲章』106番参照)

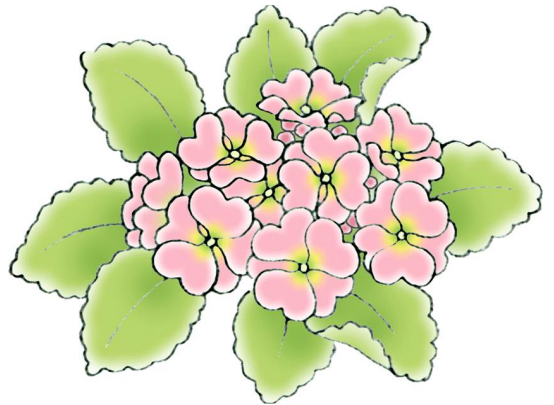
—「この日、キリスト信者は一つに集まらなければならない。それは、神のことはを聞き、感謝の祭儀に参加して、主イエスの受難と復活と栄光を記念し、彼らを『新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって生き生きとした希望を与えて(1ペトロ1:3)』くださる神に感謝をささげるためである」。(同上参照)

—「主日の集会が成り立つためには、まず教会を表す信者の集会が必要である。この集会は自発的なものではなく神によって集められた神の民の集いであり、キリストの代理である司祭が主宰する。主日の集会では、聖書の朗読と司祭あるいは助祭による説教を通して、信者はキリストの過越の神秘について教えられる。司祭は感謝のいけにえをささげ、過越の神秘を現在のものとする。」(『主日の集会祭儀指針』12参照)

・第2バチカン公会議公文書の『典礼憲章』は「主日」という言葉が何を指しているのかを明確に示しています。すなわち、主イエスの復活を目撃した使徒たちが伝えたとおり、

その日は死を過ぎ越したという意味の“過越祭”であり、ユダヤ人にとっての歴史的事実であるエジプトからの脱出（出エジプト記 12 章を参照）において代々伝えられてきた滅びからの救いを記念する日でした。このユダヤ人の記念日は、主イエスが受難を受け、死に、葬られ、復活されたことによって全人類の救いが実現する日にとって代わりました（過越の神秘）。ユダヤ人という一民族における救いの日は、洗礼を受けてキリストを着る者となった私たちにとっては主イエスが復活された日、つまり「主日」に他ならないのです。この新しい意味での過越が実現するために捧げられるいけにえは主イエスの御からだと御血です。私たちは主イエス自身という捧げものによって永遠の滅びである死から救われたことを記念し、神に賛美と感謝をささげるために集められているのです。

・私たちが主日に教会として集められるのは（「教会に集まる」ではなく）、主イエスによって実現した過越の神秘を記念し、神に賛美と感謝をささげるためです。しかも、その実現した過越は 2000 年前ではなく、今も実現する救いなの（現在化する）です。だからこそ、主日に私たち人類、キリスト者に約束された救いがどれだけのものであるかを示す、目に見えるしるし、すなわち「神のことば」と「主イエスの御からだと御血」を通して神に賛美と感謝をささげます。「主日に神が私を呼び集めて下さった！」という自覚は、信者となった者にとっては最大の喜びを伴うものなのです。主日に集まること。この意義を見失ってはなりません。



「ふれあい会」

吉田 久枝

先輩方のお話によりますと、40年前からミサ後お茶コーナーがあったそうです。

現在「ふれあい会」として13名のメンバーが分担、準備し、教会の主な行事での食事会等、皆様の協力の下、行うことができています。ミサに与った後のひとときを、時にはゆっくりとお茶を飲みながら、子供たちを交えお互いを知り、気にかけてあう繋がりのお機会として頂ければ幸いです。

ぜひ、お立ち寄りください。

外国語ミサの話 (7)

岩本光弘

スリランカは仏教が中心の国かと思っていましたが、日本の10倍のカトリック信徒がいる国でした。そのため各地で行った教会はほとんど大きい聖堂でした。前回報告したジュド神父の故郷の教会は大きかったのですが、教会はともかくとして、教会の周りにあるカトリック教徒だけの町の大きかったのには驚きました。大きな学校もありました。町の入り口の通りの角にはマリア様がありキリスト教徒の町であることが直ぐに分かるようになっていました。反対に仏教徒の町の入り口には仏像があって、分かりやすかったのが印象的でした。

この旅でジュド神父はスリランカが誇る遺跡や仏教寺院や自然公園などをスケジュールに入れて見せてくれました。巨大な岩をくり抜いて作られた洞窟寺院は圧巻でした。面白かったのは仏教寺院や遺跡に入るときには入り口で必ず素足にならないといけないことでした。この経験は数年後に行ったミャンマーで生きました。ミャンマーでは山から降りてから素足になるところばかりだったので、一週間以上草履になりました。帰りのバンコク空港の福岡行の待合室で靴に履き替えましたが、近くにいた乗客の人から「あなたはどこに行ったのですか」言われ大笑いしました。汚い恰好をしていたのでしょね。

大きな自然公園に行くと、動物が柵もなしに動いていて人は車に乗って動物を見るのです。象がいくらでもいるし、いろいろな動物が自然の中に飼育されていました。

スマトラでの大きな地震の津波はスリランカにも被害がありました。道よりかなり上部を走っていた鉄道が津波に飲み込まれ被害があり、たくさんの方が犠牲者になりましたが、鉄道が見える場所に大きな仏像がありました。日本の人が犠牲者の慰霊のために建てました。

スリランカはセイロン紅茶で有名ですが、その中心地の町に行きました。標高が300mくらい上がった所から紅茶畑が出てきます。800m以上の山の上にヌワラエリヤという大きな町があります。紅茶の取引だけで大きくなった町でした。町の入り口近くに教会があったので、明日の朝のミサのために神父が話に行きましたが、教会ではなく修道院の朝ミサに行くことになりました。修道院には寄宿舎の学校があってその生徒たちと一緒に英語のミサでした。この時もジュド神父は説教で生徒たちを爆笑させました。ミサの後、神父は聖堂の横で生徒たちを集めて手品を見せました。これには生徒もシスターも大喜びでした。ジュド神父はどこに行っても溶け込むのが上手なことに感心しました。

小学生程度の生徒たちのミサが英語だったことにも感心しました。様々な民族が共存している国では多言語を理解できることが当たり前だと実感させられます。

昔の中心都市だったキャンディーでは神学校に行きましたが、隣がオプレート会の修道院でした。神学校は授業中でしたが、大きな二つの教室に満員の生徒がいました。300人位いるそうでした。日本に比べるとすごいですね。帰国する時、ジュド神父は休暇なので私たちだけで帰りました。神父は来週には隣の教会のミサを頼まれていて、一日に5回のミサだと言っていました。この旅は楽しくていつまでも印象に残る旅でした。



水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 2月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

〈水巻聖母幼稚園〉

冬休みが終わって、3学期が始まりました。教会で始園式を行いました。各クラス年長の代表園児は、3学期に頑張りたいことを発表しました。「刺繍のお仕事を頑張りたい」「ドッジボール大会を頑張りたい」等、意気込みを聞かせてくれました。



1月11日(土)にもちつきを行いました。たくさんの保護者の方にお手伝いをしていただきました。子ども達は、お餅を触ってお餅の温かさや、柔らかさを感じて、楽しい一日を過ごせました。新しい年になって初めての行事を、無事に行えたことに感謝しております。今年も、子ども達が健康で元気に過ごせますように。

TEL : 093 201 9559

e-mail : ccontactus@mizumakiseibo.ed.jp

〈マリア子どもの家〉



新しい年になりました。令和7年も、よろしくお願ひいたします。

今年も、色々な経験をたくさんして、楽しく過ごしましょう。

インフルエンザが流行ったり寒い日が、続いたりでしたが、子ども達は幼稚園の園庭で、カートを押したり駆けっこをしたりして、元気に遊んでいます。走っている途中で、イエス様とマリア様の御像の前で立ち止まり、手を合わせ、御顔をじっと見つめたりなど、一人ひとり違う方法で挨拶をしていました。

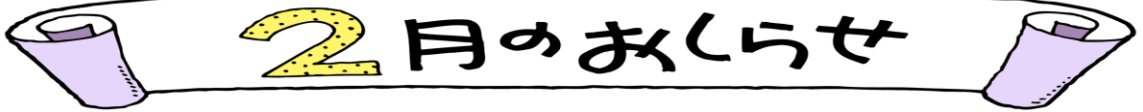
「おかえりなさい。」外で遊んだ後は、石鹸をつけ、しっかり手を洗いましょう！



「きれいになったかな？」

[https : www.mariahouseofchildren.jp](https://www.mariahouseofchildren.jp)

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家
園長 水口 由美 教職員 一同



★降誕祭祝日献金★

12月24日 37,560円

12月25日 24,455円

ご協力ありがとうございました。

★灰の水曜日★

灰の水曜日 3月5日(水)

今年は、灰の水曜日が3月です。

この日から四旬節が始まります。

復活の主日は4月20日(日)です。

★司祭不在時の集会祭儀の研修会★

1月から始まった、司祭不在時の集会祭儀の研修会が2月も行われます。

日 時：2月16日(日)ミサ後

場 所：水巻教会聖堂

是非、参加しましょう。

人・ひと

【転入】ようこそ、水巻へ！

◇朝田 スマさん

長崎 馬込教会より吉田地区へ

今月の聖人

11日 ルルドの聖母マリア

現在の南フランス、ルルドには4つの教会と多くの病院が建ち、世界中から多くの人びとが毎日、巡礼に訪れている。

これは1858年2月11日、ベルナデッタ(1844-1879)という14歳の貧しく無学に近い娘のところに聖母マリアが現われたことに始まる。まぎを採るために出かけた彼女は、小さな洞くつから光が輝き出、その中に真っ白な服装で腕にロザリオを下げた美しい女性が立っているのを見た。「15日間ここに来るよ

うに」とその女性からいわれたベルナデッタは、洞くつに通い続けた。人びとは最初冷笑したが、日増しに彼女とともに洞くつに通い、祈るようになった。その間、ベルナデッタは聖母マリアからのメッセージ「罪を償うこと、この場所に聖堂を建てること」などを人びとに伝えた。彼女のもとに聖母は18回現われた。

聖母マリアがベルナデッタに命じて掘らせた泉が、人びとの病をいやしたことからいつしかその話が人びとの中に広まった。

綿密な調査の結果、カトリック教会はルルドに聖母が現われたことの真正を認めた。

その後1866年にベルナデッタはヌヴェール愛徳修道会の修道院に入り、病弱な身をイエスにささげながら35歳の生涯を閉じた。現在、彼女の遺体は腐敗しないまま安置されている。1933年、ベルナデッタは聖人に加えられ、記念日は4月16日とされた。

